



コルネリオ会

(キリスト者自衛隊員の会)

ニュースレター No. 49

1986年10月

天幕を広げなさい

「あなたの天幕の場所を広げ、あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。」(イザヤ書54章2節)

AMCF東アジア大会も予想をはるかに上回る祝福のうちに終り、今や静かにその過ぎた所を振り返ってみたい。昨年の今頃は数人のスタッフでどうしたら国際大会が実施出来るかと全く五里霧中の状態であったが、主は必ず過不足なしにすべてを満たして下さる事を信じて準備するしか方法はなかった。

外国からの100人からの出席者についても、円高に対する打撃は別としても、現役軍人の出国の問題、多数の民間人が同時にビザを取る事に関しても予想外の問題があり、大会開会直前まで不明で、成田空港着の航空便の時間さえもきまらないという事で、一つ間違えば混乱を起こしかねない状況であった。しかし一つ一つが次々と解決して、大会は最良と思われる状態で開始する事が出来た事は奇跡であった。大会中にも色々なトピックが起ったが何れも関係者間の好意的且つ危機的な方法で解決した。又思わない所に援軍があり、又あるクリスチャンの献身的な奉仕があった事が後になってわかるという状況もあった。「主は生きておられる」とはこの大会を通しての実感であった。

大会の費用についても始めはどうなるものかと案じた。今から思えば「すべてを主にゆだねればよかったのだ」と言えるかも知れないが、しかし当事者としてはそれ程平安なものでもなかったし、信仰が足りないと言われても仕方のない状況もあった。しかしそれら収支決算の結果は更にコルネ

リオ会を伸展させるに足る費用が残ったようである。

主は不足する事もない代りに余分にも与えられない方である(Ⅱコリント8章15節)我々はここで主の前にへり下るべきであろう。主は大会が終って安心せよとはおおせられない。あなたの天幕の場所を広げなさい。栄光を主に帰しなさいと言われる。我々はこの大会の成功に気をゆるめることではなく、一休みしたら再び元気を出して幕をおしみなく張り、綱を長くし鉄のくいを強固にしなければならぬ。そして主から預ったタラントをもって新しい歩みを進めなければならぬ。(マタイ25章)

コルネリオ会も設立27年を過ぎて世界のキリスト教国の間ではその存在が認められているし、特にアジアにあっては、その小さい力をも主の御目的のために貢献するよう求められるかも知れない。

ここで、も一度わが国の状況を黙考する時、有史以来のわが民族の盛衰も、その一つ一つが主のみ手の中にあった事を認め、歴史的には色々な事が起ったとしても周辺海に囲まれた温暖なみずほの国として外敵からも守られ、今や経済的にも受けている大きな祝福について主に感謝する必要がある。そしてその事に気がついている我々クリスチャンが先づそれを強調して主を仰ぐべきではなからうか。

コルネリオ会員一人一人の上に主の豊かなお導きを祈りたい。

(今井健次記)

的にも財的にも満たされた大会であった。今顧みて、予算上の質問があった時何と答えれば最良であったか？。答えとして、受け止められるかどうかは別として、ルカ9章「5つのパンと2匹の魚」の御言葉ではなかったか。信仰の足りなさを反省すると共に、コルネリオ会員関係のクリスチャン等の祈りと捧げ物や奉仕に依って支えられたことを主に感謝する次第である。

● 東アジア大会の感動 石川信隆（防大）

この度の大会には、聴講だけのつもりで参加申込みを致しましたが、韓国団50名の方のご接待と3日目午前の聖書講演の司会という大役を頂き、びっくりするとともに大変緊張致しました。大会を通じて特に感動しましたことを次の3点にまとめ、感想を述べさせていただきます。

まず第1は、韓国の方々の猛烈なお祈りでした。2日間早天祈禱会がありました。お隣りに座った韓国の方と手を取り合ってお祈り致しました。手をぎゅうぎゅうとお互いに握りしめ合いながらお祈りしたときは、本当に涙と共に、感謝と感激にむせびました。韓国では毎朝早天祈禱会をしていることを聞き、改めてその熱烈な信仰を知りました。

第2は、2日目の尾山令仁先生のメッセージに大変感動致しました。ちょうど韓国の方が大勢参加されている前で、堤岩里の事件とその教会の再建について、自らの体験とつぐないをお話されましたとき、強い感動を覚えました。マタイ5章23～24節を読んで行動に移されたと聴き、本当にその偉大さに触れることができ、大いなる恵みを頂きました。

第3は、3日目午前の新屋徳治先生の聖書講演の司会をさせて頂いたことでした。先生は、旧海軍の軍人として南方洋上で戦い、戦後、主に救われたということで、その真摯な態度とお話に感動致しました。ちょうど大会のテーマ「主を待ち望む者は新しく力を得」というメッセージでした。

このような大きな大会に始めて参加させて頂き、私自身主に対する信仰が加速され、大いなる恵みと祝福を賜わりましたことをご報告申し上げます。このような素晴らしい大会が成功致しましたのも、

今井会長ご夫妻、矢田部実行委員長ご夫妻、滝口様ご夫妻、下桑谷様ご夫妻、長橋様ご夫妻、小山田様、木代様、その他ほんの一握りの方々のご奉仕と思います。

コルネリオ会の皆様の強いお祈りと尊い献げものの賜と主に感謝致します。

● 大会祈禱、会場、会計係を担当して

下桑谷 浩（陸自OB）

「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか」（ヨハネ6・5）。

イエスは言われた「それを、ここに持って来なさい。」（マタイ14・18）

「そこでイエスは…彼らにほしただけ分けられた。…なお、余ったもので12のかごがいっぱいになった。」（ヨハネ6・12～12）

祈りのうちに準備が進められてきた大会も主の導きと主に在る兄弟の祈りとご協力によって勝利のうちに終了できたことにつき実行委員の一人として心より感謝の意を表したい。

それにしてもなにゆえこのように神は大会をみちびき、恵み、祝され開かしたのだろうか。そのみ心とするところはなんであったのか。正直言って今結論を下すことはあまりにも時期尚早と言わなければなるまい。その答えを得るには50年先いや100年先を待たなければならないのではないだろうか。

ともあれ大会をとおして受けた恵みには計りきれないものがある。

1. 大会が2週間後と迫った最後の総員祈禱会も出席者18名。大会予算もどう見積っても100万円余が不足。今さら奉仕者の呼びかけでも、献金の依頼でもあるまい。なぜかがっくりきて祈りにも力が入らず万策尽きたの感があった。

ときを同じくして、日曜学校礼拝のお話しは5,000人を養う奇蹟の記事であった。四福音書を比較しながら準備を進めて来たとき表記のみ言が強烈にとび込んできた。「どこからパンを買って来て食べさせようか。」ピリポは電子計算機のように、とても足りないと言数字を上げて切返し、アシデレは論外と否定した。

しかし、主はご自分ではしようとしているこ

10年前に願ったこと

矢田部 稔(陸幹校, 1陸佐)

1967韓国・1968英国・1971西独で開かれた世界大会のようすを故佐々木親先生、千葉愛爾先生御夫妻、武田貴美前会長御夫妻から聞かされていましたが、10年前の1976米国大会に私自身はじめて参加したとき思ったこと、願ったことがこの度実現され嬉しい限りです。ガイド・ブックに記載し、歓迎夕食会でも申し上げた挨拶を再記します。

歓迎の御挨拶(AMCF東アジア大会実行委員長) 私は10年前の1976年7月に、はじめて海外旅行をし米国マサネッタ・スプリングスで開かれたAMCF(当時の名はOCF)世界大会に参加し、神の与えたもう愛の交わりとはこのようなものかと言う強い感動を受けたことでした。

その時の国際会長・英国のユーバンク将軍の挨拶を今もはっきりと思い出すことができます。

「ようこそマサネッタ・スプリングスへ。皆さんは遠路はるばるやって来られました。労力的にも経済的にも大変な御負担であったと存じます。しかし、次の3点は確かでしょう。第1点は米国AMCFの皆さんの十分な歓待と好意を受けられること。第2点は多くの国のキリスト者の友達を得られること。第3点は帰国後ここで得られた全世界のための御経験を話さないではおれないでしょうということ。……………」と言うものでありました。

そのとおり、私は帰国後直ぐに自分の属する教会の聖日礼拝の中で証をする機会が与えられ世界大会のこの貴重な経験を話しました。そして、日本もいつの日かこの国際大会を担当せねばならない。世界の方々のためにお役に立たねばならない。しかし、宣教100年を経たが教会の力が十分に発揮されない日本、年令17才の科尔ネリオ会にこのことがいつ許されるのだろうかと言ったことでした。

それから10年、科尔ネリオ会は27才になりましたが身長はあまり延びておりません。しかし、ここに東アジアの諸国から国防のため重要な働きをさ

れている皆様をお迎えして神の与えたもう新しい力を分かち合う機会が私達科尔ネリオ会にも与えられましたことは、真に幸いであると存じております。

この大会のため御支援御激励を賜りました国内外の方々に対し厚く御礼申し上げます。

AMCF 東アジア大会でのあかし

● 信仰による祝福

滝口巖太郎(空自OB)

そのとき、主はギデオンに仰せられた。「あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが「自分の手で自分を救った。」と言って、わたしに向かって誇るといけないから。(士師記7章2節)

今年の1月、AMCF東アジア大会を、数ヶ月後に控えた科尔ネリオ会の総会で読んだ聖書の一部分である。

読んだ主旨は人数的にも財的にも少ない力で大会を乗り切れると言う励ましの為であった。この総会でも、若し財的に満たされなかった場合はどうするのかと言う質問があった。私自身は心の中では「必ず満たされる。」と思いがあったが、若しと言う仮定の質問に対して現実の財務係の保証の言葉として必要なら赤字を補填する覚悟もあり「俺に任せろ」と言うような言葉を述べたのである。この言葉に対し先輩会員から批判のお言葉を頂き自分なりに反省し、それでは何と答えれば納得がいてもらえるのか、思い上がりや育ってはいけないと考えていたところ、大会1ヶ月前最終的な詰め段階で再び同じ質問を受けたのである。ただこれまでの会員の献金の状況から、若し不足がでて50万~70万円と、ある程度の見積幅もあり赤字が出て現会員の力で1回の期末手当時期の献金で返済可能な額でもあり、今回は「立て替えましょう」と言う言葉を準備していたのである。然し委員長の借りは残したくないという考えに従い、予算を再編成しグランドヒル市ケ谷とも経費を再交渉節減して大会に臨んだのである。大会は小さな手違いはあったにしても、主にあって信仰

的にも財的にも満たされた大会であった。今顧みて、予算上の質問が有った時何と答えれば最良であったか？。答えとして、受け止められるかどうかは別として、ルカ9章「5つのパンと2匹の魚」の御言葉ではなかったか。信仰の足りなさを反省すると共に、コルネリオ会員関係のクリスチャン等の祈りと捧げ物や奉仕に依って支えられたことを主に感謝する次第である。

● 東アジア大会の感動 石川信隆（防大）

この度の大会には、聴講だけのつもりで参加申込みを致しましたが、韓国団50名の方のご接待と3日目午前の聖書講演の司会という大役を頂き、びっくりするとともに大変緊張致しました。大会を通じて特に感動しましたことを次の3点にまとめ、感想を述べさせていただきます。

まず第1は、韓国の方々の猛烈なお祈りでした。2日間早天祈禱会がありました。お隣りに座った韓国の方と手を取り合ってお祈り致しました。手をぎゅうぎゅうとお互いに握りしめ合いながらお祈りしたときは、本当に涙と共に、感謝と感激にむせびました。韓国では毎朝早天祈禱会をしていることを聞き、改めてその熱烈な信仰を知りました。

第2は、2日目の尾山令仁先生のメッセージに大変感動致しました。ちょうど韓国の方が大勢参加されている前で、堤岩里の事件とその教会の再建について、自らの体験とつぐないをお話されましたとき、強い感動を覚えました。マタイ5章23～24節を読んで行動に移されたと聴き、本当にその偉大さに触れることができ、大いなる恵みを頂きました。

第3は、3日目午前の新屋徳治先生の聖書講演の司会をさせて頂いたことでした。先生は、旧海軍の軍人として南方洋上で戦い、戦後、主に救われたということで、その真摯な態度とお話に感動致しました。ちょうど大会のテーマ「主を待ち望む者は新しく力を得」というメッセージでした。

このような大きな大会に始めて参加させて頂き、私自身主に対する信仰が加速され、大いなる恵みと祝福を賜わりましたことをご報告申し上げます。このような素晴らしい大会が成功致しましたのも、

今井会長ご夫妻、矢田部実行委員長ご夫妻、滝口様ご夫妻、下桑谷様ご夫妻、長橋様ご夫妻、小山田様、木代様、その他ほんの一握りの方々のご奉仕と思います。

コルネリオ会の皆様の強いお祈りと尊い献げものの賜と主に感謝致します。

● 大会祈禱、会場、会計係を担当して

下桑谷 浩（陸自OB）

「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか」（ヨハネ6・5）。

イエスは言われた「それを、ここに持って来なさい。」（マタイ14・18）

「そこでイエスは…彼らにほしただけ分けられた。…なお、余ったもので12のかごがいっぱいになった。」（ヨハネ6・12～12）

祈りのうちに準備が進められてきた大会も主の導きと主に在る兄弟の祈りとご協力によって勝利のうちに終了できたことにつき実行委員の一人として心より感謝の意を表したい。

それにしてもなにゆえこのように神は大会をみちびき、恵み、祝され開かしたのだろうか。そのみ心とするところはなんであったのか。正直言って今結論を下すことはあまりにも時期尚早と言わなければなるまい。その答えを得るには50年先いや100年先を待たなければならないのではないだろうか。

ともあれ大会をとおして受けた恵みには計りきれないものがある。

1. 大会が2週間後と迫った最後の総員祈禱会も出席者18名。大会予算もどう見積っても100万円余が不足。今さら奉仕者の呼びかけでも、献金の依頼でもあるまい。なぜかがっくりきて祈りにも力が入らず万策尽きたの感があった。

ときを同じくして、日曜学校礼拝のお話しは5,000人を養う奇蹟の記事であった。四福音書を比較しながら準備を進めて来たとき表記のみ言が強烈にとび込んで来た。「どこからパンを買って来て食べさせようか。」ピリポは電子計算機のように、とても足りないと言数字を上げて切返し、アシデレは論外と否定した。

しかし、主はご自分ではしようとしているこ

とを知っておられたのである。続いて主は「それをここに持って来なさい」と言っているのではないか。そうだ大会の総責任者は主イエスさまではないか。「ハイ分りました。今与えられている奉仕者、献金これぞ2匹の魚、5つのパンではないか。そっくり献げますから主が祝し満してください。」私はひざまづき一切をささげて祈った。

不思議なことにこの事を境にしてすっかり肩の荷がおりた。逆に大会が待ち遠しかった。主が大会においてどのような奇蹟のみ業をみせてくれるのだろうか。

2. 大会は終了した。ある方が「本当に大会は開かれたのですよね」と言われた。それは信じ難い程の奇蹟の数々であったからだ。

まさに「人々はみな、食べて満腹し……12のかごにいっぱいあった」。参加者も奉仕者も全てが恵まれ満たされたのであった。

3. 「小人数でよくもこれだけのことが」は奉仕者の一人一人の気持であると思う。しかし断じて忘れてはならない。主はエリヤに7,000人を残しておくと言われたのだ。

大会の奉仕者にして然り。大会のために出席することはできなかったが、献げものをもって祈りをもって支えてくれた会員。会員の所属教会の祈りと励み。韓国OCUの朝禱会における特別祈禱をはじめ各国のメンバーの祈り。この大会はこれらの背後に在る兄姉の手に支えられてきたのである。

私は、この大会をとおして「キリストにもてるものを全てを明け渡すこと」と「イエスは主なり」という信仰の原点を再吟味させられた次第である。

●大会をとおして感じたこと

武内哲史(技本)

私は忙しいことを理由にして、全く奉仕もしないで、大会3日目の8月9日の1日のみ参加しただけでした。しかし、参加して本当によかった、と思っています。以下、断片的に感想を述べさせていただきます。

1. 雰囲気

参加した人が皆さん生き生きとして楽しそうでした。外国人も日本人も。グランドヒル市ケ

谷の豪華な部屋もよかった。9日の送別夕食会では、各国の代表が話に熱中のあまり、予定時間をオーバーして22時を過ぎ冷房を止められてしまった位です。幹事には、会館から苦情が言われたことと思います。

2. 準備

会場には、大きな看板がぶら下げられていたが、これが何と手作りだそうです。大変立派なもので感心致しました。

記念写真、スナップ写真については、午前中に撮ると午後には見本ができ、注文すると夜配布されるという手際のよさでした。

3. 通訳

日本人牧師が説教する場合は、国際会議と同じく同時通訳がなされていた。しかも英語、韓国語及び中国語の3チャンネルもある。これもコルネリオ会員の子弟がやっているとのこと。驚きました。

同時通訳設備のない宴会場では、通訳が二人必要なこともありました。これも臨機応変のすばらしい通訳をしていました。

4. 説教

閉会礼拝での説教は安藤仲市師でした。86歳という年齢にかかわらず、力強い説教でした。最後の祝禱も、神の臨在を感じさせる素晴らしいものでした。

5. 奉仕者

コルネリオ会員の幹事もさることながら会員の家族の活躍がめざましかった。

6. その他

幹事の方々本当に御苦勞様でした。人、物、金が足りない尽しの状況の中でよくあれだけの大会を開催して下さいました。

神の恵みの大なるを感じます。

●大会準備に奉仕して

小山田光成(空資材隊)

私がコルネリオ会に参加するようになったのは、82年10月、横田基地チャペルで行われた日米合同修養会以来のことです。その後、毎月1回、目白の新屋牧師館の一室で行われる例会に参加してきました。出席者は平均して5~6名でした。83年

に台湾でアジア大会が行われ、今回は日本が担当してほしいということで、引き受けざるを得ない様相になりました。84年にはソウルで世界大会が行われ、コルネリオの会員も多くの恵みを受けて帰ってきました。

東アジア大会はソウル大会のように至れり尽せりのようにはできなくても、やれることをやろうと86年8月を目指して準備が進められました。アジアといっても東アジアの範囲で7～8カ国、海外からの参加者は80名、国内100名という予定で開催の準備が始まりました。準備委員が少なく果してどれだけできるか見当がつかない状態でした。私は渉外と大会ガイドブック作りを担当しました。苦心した日英両語のガイドブックは大会直前によくできました。大会での奉仕は、箱崎ターミナルでの出迎え（フィリピンの団長一人のみ）、大会の記録、都内案内（韓国代表団を夜の新宿へ、フィピン代表団を秋葉原やアメ横へ）、閉会礼拝の司会などをやらせていただきました。

この大会では言語の違いがあっても問題となることなく、スムーズに進行しました。英語、韓語、華語のすばらしい通訳者が与えられたお陰です。私自身、日本語の分かる参加者との会話が多く、その他の人達とは英語で苦労することなく交流できました。

講師のメッセージは、日本と他のアジアとの関係の内容が多く採り上げられました。過去の日本がアジアの人々に犯した過ちを語り、神の下にあって和解の労をとっている行動には感動しました。クリスチャンだからこそできたのであり、クリスチャンこそ率先して、まず和解からはじめなければならないという気持ちになりました。さらに、喜びに満ちあふれたクリスチャン生活の奨励があり、決意を新たにしました。この思い出を大会報告書の形にして、コルネリオ会の発展のスプリングボードにしたいと思います。

●カメラマンを命ぜられて

松山暁賢（東北補給）

先ずは、AMCF東アジア大会に参加でき主にある交わりを持つことができましたことを感謝いたします。

今回はコルネリオ会が主催する東京大会であり

ますが、大会時期が定期異動の時でもあり、早期に、上司、同僚の了解を得ておりました。従って堂々と参加出来るはずでしたが、8月5日仙台地方は、1日の降雨量401ミリという未曾有の大洪水に見舞われ、幹線道路や、国鉄は全線不通。県への要請で部隊の災害派遣が開始されました。幸いにして我が東北地区補給処は、7日朝非常勤務態勢が解除され、本大会にも無事間に合いました。本年3月まで勤務していた部隊では、ダメだったことを思うと、私は本当にラッキーな男です。

さて、本大会における私の担任は、カメラマンでした。写真技術を全く有しない私にとって、これは大役でした。今井会長から与えられた高級カメラも使いこなせないため、自分のバカチョンカメラと矢田部兄から借用した全自動カメラで気軽にやろうと決め込みました。カメラマン奉仕のおかげで、本大会のすべてを、縦から横から斜めから撮ることができました。私がカメラを向けると愛想よくポーズを作るアメリカ人、急に真面目顔の日本人、自分のカメラで撮るよう要求する韓国人等々、約200枚は撮ったでしょうか。

さて、このスナップ写真を100人近い外国人を相手に、どのように注文をとり、焼増し、配布するかが大問題でした。しかし、スタッフのアイデアで、最終日（9日）昼までの写真は、すべて、前払注文制で、サヨナラパーティまでに焼増し、配布することができました。カメラスタッフは、小山田兄が責任者で、長尾兄、山田兄、武田健兄、矢田部健兄でした。でも、一番大変だったのは、個人毎に注文を受け集計し、集金と合せてから焼増し、個人毎に配分する仕事でした。これにはさらに若い小侯姉の応援がありました。

最後に、韓国の札鳳鎬（Park Bang Ho）兄が「日本OCUは家族ぐるみで、大会運営に当られていたのでチームワークは実によい、これはスバラシイことです。」と感想を洩らしておられましたが、事実、受付、案内、接待、同時通訳、写真、それに東京見物のエスコートまで、在京コルネリオ会々員ファミリーのご支援のおかげでありました。

本大会の成功を祝うとともに、コルネリオ会の益々の発展を祈念致します。

● ランチタイムの証詞

関 六郎(海自OB)

8月7日会社を早退して新装なった市ヶ谷会館に出かけ参加する。受付には海自OBの足立兄御夫妻が奉仕をされていた。海自関係者の参加が少ない。

外国勢が多く日本人はあまり眼立たない。忙がしく動いているのは日本の役員とよく判る。と云うのも韓国勢につづいて中国勢が多くみられ顔を見ただけではよく判らない。

会場を見て歩いたが入口のそばには壁一面放送室があり、ここから講師の先生方のメッセージが、英語、中国、韓国語となつて、ときには日本語となつて同時通訳されるようになっている。鏡の中では何人もの係員がコードを引っぱっている。私の奉仕は第2日目11:30~12:30の昼食の司会と云うことで軽い気分でおったが、なんと、この時間には各国グループの催しものが披露されることになっていた。

私は喜んでこのご奉仕をさせて頂く、この場をかりて神を証しする機会が与えられたからです。証しの要旨は次の通りです。

主旨 「神に生かされている」

昨日から今日にかけて各国の兄弟姉妹を迎えてここに一堂に会し交わりをもち、まさに神による一致がここに完成されているわけです。み霊に満されたときをもつことができたわけです。言葉の違う多勢の人達がそれぞれの会話をしている。その光景は聖書にもある通りです。しかし讚美歌のときは皆んなで歌い一つの歌声となつて響きわたります。(4カ国語で書かれた讚美歌集使用) 本当に素晴らしい感激の場がそこにありました。

さて私は神に生かされてここまで来ました。

1. 昭和13年 海軍入籍駆逐艦乗りとして海の戦場をかけめぐり終戦となる。
2. 昭和25年~45年 海上自衛隊勤務
3. 昭和58年2月 交通事故にあい、生死の間をさまよう。

- (1) 顔面口腔骨折3カ所
- (2) 入院1カ月10日
- (3) 歯科診療期間 満2カ年

このように青春時代は戦場から始まって現在までの長い間、神は私を必要としたのです。神によって生かされて66才になります。神により新しい生命が与えられたのです。感謝です。私は機会をみて神を証しするように心掛けております。神の大いなる、み力がここにもあらわれているのです。

すばらしい先生方のメッセージに感激する。クリスチャンスマイルスの可愛いお嬢さん方のすばらしい讚美歌、1人1人の証しに涙を流す。市ヶ谷会館に入ってから出てくるまで大変恵まれました。多勢の韓国の方々と友人になることが出来ました。この大会のために奉仕された奥様方をはじめ兄弟姉妹に感謝申し上げます。これらの方々の上に又OCUの諸兄の上に豊かな恵みがありますようにお祈り致します。

● 大会最後の日

矢田部和子(矢田部1佐夫人)

大会最後のプログラムは「コルネリオ会々員の属する教会で聖日礼拝をまもる」でした。私共の教会は、千葉県松戸市北部の新興マンション街地区の一角にある新松戸幸谷教会です。市ヶ谷での朝食後、韓国の方5名(1組の夫婦を含む)と、フィリピンの方4名を松戸へご案内しました。礼拝の後では婦人達が準備したサンドイッチで愛餐会が開かれました。フィリピンのチャプレンによるプロ歌手とも思えるすばらしい讚歌の披露、教会の子ども達の歌、韓国・フィリピンの各チャプレンのお話、韓国金夫人の証など教会員共々などやかなうちに恵まれた時を過しました。金夫人は27年間教会学校の教師として奉仕されているとのこと、ご主人は退役後、衣料関係の仕事をされており、教会の役員でもあります。「子どもの頃、日本の統治下におかれて、毎朝学校では東を向いて(皇居の方向)お辞儀をさせられ、日本人は一体どんな人達なのだろうと思っていた。昨日はその皇居を見て来た。今こうして同じ信仰の日本人と唯一の主なる神様を礼拝することが出来て心のわだかまりは全く消えた。日本はクリスチャンが少いが、祈りが足りないからだと思う。祈れば必ず神様はきき入れて下さる。私も日本のクリスチャンがふえるように祈ります。」ときれいな日本語で話されました。

フィリピンの方々を松戸のわが家で夕食をもてなし、再び市ヶ谷の会場近くの主人の官舎へ足を運んでいただき、翌早朝、空港行バスが出る箱崎までお送りして矢田部家のプログラムは終わりました。

大会のために献金を捧げてくださった知人の方々に、大会が成功裡に終わったことを感謝してお知らせしました。お返事の一部をご紹介します。

「……ご成功を心よりおよろこび申し上げます。世界平和につながる会ですのでSSの子ども達の献金の使途にふさわしいのではないかと思います献金させて頂きました。……」

「……軍人こそ平和を愛するクリスチャンであって欲しいと心から願い……」

国境、民族を越えた主にある交わりの広さ、深さ、美しさは一口では言い表わせない程です（詩篇第100篇）

コルネリオ会に課せられている使命に神様の御導きを祈るものです。

主に讃美を、隣人に感謝を

AMCF東アジア大会は去8月7日から8月10日まで、東京新宿区のグランドヒル市ヶ谷を会場として、主の大きな祝福のもとに終了した。すべてを支配し導びいて下さった全能の主に讃美と感謝を捧げたい。又参加者は外国から92名、日本側81名、合計173名であり大会の内容の細部については別途報告されることになっているが、ここに大会の推進および進行のために奉仕して下さった下記の方々に対し厚く感謝の意を表したい。

奉仕者氏名（敬称略、順不同）

1. （説教者） 安藤伸市、加藤正義、新屋徳治、尾山令仁、後藤茂光、竿代忠一
2. （設営）（市ヶ谷会館） 古賀速雄、窪寺正直、西野佳祐、斉藤敏栄、他関係者一同
（自衛隊市ヶ谷駐とん地） 有志一同
3. （通訳、司会、音楽、案内、業務一般等） 海野幹郎、海野光代、海野多枝、山口利勝、

長橋和彦、市川珠代、Pan Ruth、石川信隆、梶原三津子、椎名敏子、藤本悦子、吉江誠一、寿円正巳、中野研精、関六郎、玉井佐源太、西原隆、木代稔、長橋晴子、矢田部路子、猪井とし子、小坂忠他1名、土屋たまみ他5名（クリスチャンスマイルズ）崔兄他2名、近藤法子、川上弓子、猪丸兄、為我井由美子、足立順二郎、足立矩子、藤田勝男、藤田輝子、西出恒子、松山暁賢、山田伊智郎、武内哲史、中野正治、長尾有、小林祐子、武田健、矢田部稔、矢田部和子、矢田部健、滝口巖太郎、滝口きぬ子、小山田光成、下桑谷浩、下桑谷玲子、岡村紀子、今井健次、今井倫子、今井俊博、今井崇博、大多和淑子、小俣成代、福井一男、福井福子

4. （献金者）

山中朋二郎、石井錦一、望月錦吾、高橋富士雄、横山一郎、谷岡博志、狩谷滯子、北川政雄、石坂朝弘、三嶋滋、今井健次、瀬崎肇、井嶋幹夫、藤田勝男、武田貴美、今村和男、道籙信千代、大橋忠造、玉井佐源太、下桑谷浩、安永稔、マクドナルド、伊沢勲、中野正治、峯崎康忠、山野恒二、今井崇博、矢田部稔、滝口巖太郎、峯野龍弘、山口利勝、山下貴久、足立順二郎、長橋晴子、蔵谷三郎、海野幹部、小山田光成、石川信隆、堀ノ内勇吉、中野研精、今井倫子、千葉愛爾、松山暁賢、米浜弘明、志賀正吾、吉江誠一、武宮啓夫、椎名良三、福田俊治、後藤牧人、森田忠信、武内哲史、矢田部和子、関六郎、坂本登利男、滝原博、林田芳秋、下桑谷玲子、西原隆、長橋和彦、岡村紀子、保科六三郎、清水總子、鮎川英男、飯塚正実、寿円正巳、滝口きぬ子、小森邦治、法元聖興、岩井睦、高野龍、森本節夫、安藤伸市、石原恵、横山巖、須藤義照、矢田部裕、長谷川保、矢田部貞、倉松功、竹内羊蔵、池田事夫、矢田部路子、菊池利弘、金子百子、石村康子、鈴木俊、鈴木公恵、松隈敬三、武田英四郎、小国栄、中村義治、三浦綾子、大塚和子、米軍チャプレン基金、加藤亮一、東京国際朝禱会、佐野とよ子、林孝、小山浩司、和栗タエ、三宅早苗、オチアイ仁、野畑新兵衛、宮城明彦、新松戸幸谷教会、今井信子、根本昭

コルネリオ会1986年度総会

本年度総会を次のように行います。ご出席下さい。出席出来ない方は委任状をお送り下さい。

日時 11月24日(月) 14:00~16:30
場所 東京都豊島区西池袋3-5-17
日本キリスト教団 東京池袋教会
Tel. 03-988-0834
説教者 加藤亮一牧師

佐原友治, 大西誠一郎, 高木実子, 新保勇, 上羽操代, 吉田吉夫, 石渡登美子, 後藤茂光, 松戸教会, 西条キイ子, 教文館, 東隆世, 高知南国教会, 下桑谷忠子, 大和田美恵子, 富平俊枝, 熊谷正信, 有本優, 大塩綾子, 中村茂, 三上賢一, 日野寛子, 益子昭子, 阿部信男, 石田英司, 山田伊智郎, 浅賀優子, 安藤善枝, 浜松ホーリネス教会, 前田正之, 淀橋教会, 迫田謙一, 幸田梅子, 久里英二, 吉田好里, 守屋修治, 清水義, 中谷繁雄, 榊原瑛子, 中山昇一, 丸山軍司, 水田正三, 佐々木泰雄, 富田鉞次, 猪狩栄勇, 落合幸人, 宮崎健男, 宮崎珠子, 溝口裕, 林昭人, 柳生せき, 中里恵美, 金子トメ, 大倉令子, 篠田肇, 上野亘, 鈴木留蔵(CBMC)越田久一, 鷺山林蔵, 三和紀夫, 小俣仁子, 小俣成代, 北秋津キリスト教会, 小笠原長信, 斉藤泰子, 斉藤孝, 斉藤久恵, 近藤法子, 尾山令仁, 千場英弘, 山下洋子, 上田光正, 西出恒子, 大多和淑子, 新屋徳治, 加藤正義, 海野幹郎, 海野光代, 海野多枝, 今井俊博, 藤本悦子, 扇山俊子, 池田事夫, 呉將軍, 韓国OCU, バツキングハム將軍

5. (祈りの友)

日本全国にわたる祈りの友, 外国に散在する祈りの友の厚い祈りによってこの大会が支えられて来た事を思い, 感謝と共に主の豊かな御祝福を祈ります。

コルネリオ会事務局(JOCU)
東京都東村山市富士見町2-12-34
TEL 0423-93-6902
振替 東京3-87577
富士銀行池尻大橋支店(普)634761

(発行責任者 今井健次)

☆ 昇任, 転勤, 住所変更等の場合はお知らせ下さい。

☆ 原稿募集します。論説, あかし, 近況, 何でも結構です。